

配達することに決定！

危機一髪のわけを聴きました。

すると、クリーニング屋さんでお話をしていたときのことだそうです。80歳代の男性がアクセルとブレーキを踏み間違え、自分の自動車の後部にぶつかって、そのまま店内に飛び込んできたとか。

瞬間的に、からだをよけたため、ケガ1つ負わなかったといいます。

上着は、ガラスの破片でズタズタに。自動車は修理するのに1か月もかかり、警察の事情聴取でも、「よくぞ、ご無事で」といわれたほどでしたと。

一方、去年まで、ご自分で運転して来局していた80歳代の女性。家族からは、「運転免許の返納を」といわれていたの、思い切って返納したそうです。

気軽に軽自動車を運転して来局されていたのですが、歩いて来れる距離ではないので、息子さんの自動車に乗せられて、買い物に来られます。

しかし、「いつもいつも息子のやっかいいにはなりたくない」からと、「宅配便で商品を送ってください」と。商品によっては、運賃と変わらないものも。結果、配達するということになりました。

思わず伝えたこと

ある日のこと、配達に行くと、いきなり、いわれました。

「宮川薬局のお客さまが亡くなったとき、ご家族の希望で、わざわざお店の前をとおる斎場へ向かった人がいるそうね」

そうして、こう続けました。「私も、

店頭から  
「こんにちは」

第115回

自動車の運転免許を潔く返納した女性の元気を応援  
自然と食べものの交換をし合う仲に

介護関連のお仕事をしている60歳前後の女性が、買い物が終わってポツリと。何と、「私、危機一髪で死ぬところだったの」というのですから、驚きました。



お世話になっているから、病気にもならないで、1人で生活ができています。実際、体調をお話すると、ピタリと効くおクスリを選んでくださるので、息子に同じことをするように、頼んでおこうかしら」  
私は、こうお伝えしました。

「そうですね、20～30年後、宮川薬局の前をとっておもらうように頼んでおいてください。プア〜とクラクションを鳴らしていただけたら、店の前に行って手を合わせます」

こうした会話ができるのも、信頼し合っているからでしょう。

「私、こう見えてもグルメなのよ。いつもお取り寄せしているの」

配達に行くと、いつも食べものをプレゼントしてくださるのです。そこで、私は、妻の手作りのおかずを、1人前、持って行くことにしています。

「物々交換ですね」というと、「手の込んだ料理を作っても、喜んでくれる人もいないし、最近は料理もあまりしなくなりました。おかず、いただくと助かるし、感激するわ」とも。

私は思わず、「元気で長生きしてくださいね」と――。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表  
薬学博士・薬剤師  
みやがわとしじ

宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「コロナ禍が続いていますが、換気にもご留意を」

